

校内全体研究計画

1 研究主題

自分の考えをもち、表現する児童を育てる指導法の工夫

～人との関わりを大切にした『話す・聞く』の指導を通して～

2 研究主題の設定理由

(1) 昨年度までの研究概要

主体的に学ぶ児童の育成

～学習のイメージを明確にもつ指導の工夫と改善を通して～

令和4年度から令和5年度にかけて上記の主題で、研究を進めてきた。「単元構想メモ」を作成し、「児童の実態の把握」「評価基準の設定」「児童に身に付けさせたい力」を明確にすることで、単元に見通しをもって指導する土台を築いてきた。また、導入で単元のゴールを児童と共有することで、児童の主体性に変化が現れた。今年度は、昨年度まで研究で行っていた「単元の見通し・ゴール」「児童の主体性」を基盤に、伝え合いを通して、自分の考えを表現できる児童を育てていこうと考える。

(2) 昨年度末の研修の振り返り(令和6年度2月実施)

○身に付けてほしい力

- ・粘り強く学習に取り組む姿勢
- ・思いや考えを表現し、伝える力
- ・人の気持ちを思いやる⇒伝える、行動に表す
- ・相手の話を聞く力。
- ・相手の考えを聞くことで、自分の考えを深める力。

○本校の児童の実態

- ・学力差がある。
- ・自分の考えを表現することが苦手な児童が多い。
- ・相手の話を聞く力が乏しい。
- ・他人に対して興味をもつ児童が少ない。

(3) 全国学力学習状況調査の結果からの考察

全国学力状況調査の結果より、「話す・聞く」の調査は、73%であった。また、3年間での経過を見ると、全国平均よりも低い傾向にある。知識・技能を問う問題では正答率は78%に対して思考力・表現力を問う問題に関しても、65%という結果だった。さらに、解答形式では記述式の問題が、選択式の解答形式に比べて著しく低い。以上のことから、知識・技能は身に付いているにもかかわらず、自分の考えを話したり、書いたりする表現力には課題があると考ええる。以上のことから、「話す聞く」の基礎を身に

付けるとともに、自分の考えをもち、相手に発信する表現力を身に付けていくことが必要であると考え。

(4) 学習指導要領より

育成を目指す資質・能力を「①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③学びに向かう力・人間性」とし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を求めている。特に、本校の研究主題は、「自分の考えをもち表現する力を育てる指導法の工夫」としているが、これは②思考力・判断力・表現力の「日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う」に関連する部分が多く、これからの教育に必要不可欠なものであると考える。

(5) 学校教育目標より

本校では、生涯を通じて主体的に学ぶことのできる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成を目指して、

未来に向かってがんばる子 ～ チャレンジ！～

を教育目標に掲げている。

【めざす児童の姿】

① 主体的に学ぶ子

- 粘り強く学びに向かう子
- 見通しをもって学習する子
- 学習の成果を生かせる子

② 心豊かな子

- 丁寧に話をする子
- 元気に挨拶をする子
- 自分も他者も大切に子

③ たくましい子

- できることを増やせる子
- 元気に挨拶をする子
- 自分の命は自分で守れる子

本校は、上記の学校教育目標及びめざす児童像を掲げ、日々その具現化に努めている。「自分の考えをもち、表現する力を育てる」では、他者との関わり合いを大切に、自分の思いや考えの伝え合う中で、表現する力を育てていこうと考える。

3 目指す児童像

【低学年】自分の思いをもち、自分の思いを表現ことができる。

【中学年】友達と伝え合う中で、自分の思いや考えをもち、表現することができる。

【高学年】友達と共有することにより自分の考えを明確にし、表現することができる。

4 研究の仮説

仮説①

考えをもつ場を工夫すれば、自分の伝えたいことを精選して考えることができるようになり、自分の考えを明確にすることができるであろう。

仮説②

伝え合いの場の工夫をすれば、自分の意見を進んで発表したり、相手の意見を積極的に聞いたりすること力を身に付けることができ、表現する力が身に付くであろう。

5 仮説への手立て

仮説①の手立て

- ①単元のゴールの提示（○相手意識（誰に何を伝えるか） ○資料 ○発表）
- ②単元構想メモの活用
- ③題材の精選

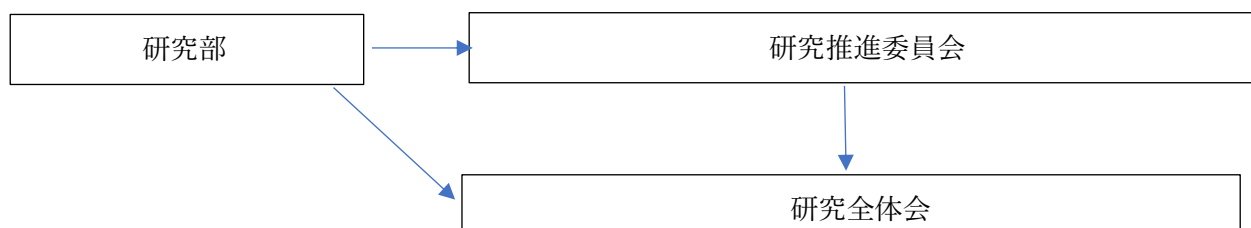
仮説②の手立て

- ①伝え合いの形態の工夫
 - ペア ○グループ ○ペアやグループを決めずに自由な話し合い ○全体
- ②伝え合いの内容の精選
 - 伝え合いの柱を明確にする。（何について話し合うのか）
 - 伝え合いの目的を明確にする。
 - ・伝え合うことで、一つの意見にまとめる
 - ・伝え合うことによって、よりよいものを作り上げる
 - ・伝え合うことで、自信をもって発表できるようにする
 - ・伝え合うことで、自分の考えをまとめる
- ③伝え合いの方法の工夫
 - 発表資料の提示の仕方（ICT、実物…） ○発表ボード、ワークシートの活用

6 仮説に関する検証方法

- 教師が設定した「児童に身に付けさせたい力（単元のゴール）」と「単元の学習を終えた児童の姿」の同一性。
(資料・児童の様子)
- 学習に対する児童の変容
(振り返りカード・アンケート)

7 研究の組織



<研究部>

- ・具体的な研究推進についての計画や原案を立案し、研究実践の円滑な運営を図る。
- ・推進方法についての変更事項などを伝達する。
- ・毎回の会議の目的を明確にする。(研究主任)
- ・「話す・聞く」土台や「伝え合い」の土台に関する学習の掲示物作成やアンケートの作成する際には、リーダーとなって進める。

<研究推進委員会>

- ・具体的な研究推進についての計画や原案を立案し、研究実践の円滑な運営を図る。
- ・推進方法についての変更事項などを伝達する。
- ・毎回の会議の目的を明確にする。(研究主任)
- ・国語主任から授業について授業形態や資料、発問などのサポートをする。

<全体会>

- ・研究計画について共通理解し、具体的に実践する母体とする。
- ・原則として木曜日。 ・受講、実技研修、研究協議を行う。

8 研究の内容・方法

①日常における学習指導

②指導室訪問（先生方の授業力向上）

③国語科の授業実践（学年で1授業）……12・1月予定あり

9 『話す・聞く』の基礎を育てる

『聞く』力を育てる

- 話の聞き方の基礎（相手を見る、静かに、最後まで）等の継続的实践
- 教師が児童の発言を繰り返さない⇒児童同士で話を聞くように
- 「あいのそなたさ」の実践
- 発言を受けての発言、切り返し

『話す』力を育てる

- 自分の考えをもつための材料を集める。（考える・グループトーク・調べる・全体で共有する）等
- 自分の考えを書き、明確にする。
- 「声のものさし（大きさ）」や「良い発表の仕方」の確認、継続的实践

10 若年層研修について

若年層研修対象者

※若年研メンター

※若年層研修長の役割

- ・若年層研修の計画・運営
- ・授業研修会の日時の設定、指導案検討等の日程の計画、先生方への周知

1 1 研究の計画

※学習支援アドバイザー、ICT 支援アドバイザー等の関係で日程の変更もあります。変更後のスケジュールは、「研修だより」でお知らせいたします。

月	日	曜	研修内容	研修・形態	備考
4	11	木	○今年度の研修の方向性および取り組み方	研究部	
	18	木	○今年度の研修の方向性および取り組み方	研推	
	25	木	○今年度の研修について（概要説明）	全体	方向性の確認
5	2	木	○エピペン研修会	全体	
	10	金	○ICT 支援アドバイザーによる講話	全体	
	16	木	プール清掃	全体	
	23	木	○授業研の日程、担当 ・第1・2回授業研修会の展開者決め ○指導室訪問展開单元・展開相談 ○指導室	全体⇒ブ ック	
	30	木	○小中合同救命救急研修	全体⇒ブ ック	
6	6	木	○指導室訪問指導案作成等	個人	
	13	金	○学習支援アドバイザーによる講話	全体	リサーチルーム
	20	木	○指導室訪問1回目検討	ブロック	リサーチルーム
	28	金	○「話す・聞く」ご講話	全体	リサーチルーム
7	4	木	○指導室訪問指導案作成等	ブロック	
	18	木	○单元決め・展開の内容決め	ブロック	リサーチルーム
	夏		○指導室訪問検討（最終）	ブロック	リサーチルーム
	夏		○ICT 研修会	全体	
8	夏		○指導室訪問指導案（製本・送付）	全体	
9	5	木	○指導室訪問準備	個人	
	9	月	○指導室訪問	個人	
	26	木	○研究授業検討①ー2	個人	
10	3	木	○研究部より	全体⇒個人 等	
	10	木	○研究授業検討②ー2	教科	
	31	木	○学習支援アドバイザーによる講話	全体	
11	7	木	○研究授業検討①ー3	全体	
	14	木	○研究部より	全体⇒個人 等	
	21	木	○授業準備・教材研究	教科	
12	5	木	○授業研究会①	全体	
	19	木	○研究授業検討②ー3	全体	
1	16	木	○授業準備・教材研究	教科	
	23	木	○全国学力状況調査の見直し	全体	

	30	木	○授業研究会②	全体	
2	6	木	○今年度の研修のふり返し	ブロック	
	13	木	○年間計画、別葉の見直し	学年	
	20	木	○年間計画、別葉の見直し	学年	
3	6	木	○来年度に向けての取り組み ○自主研修	研推 個人	